

エドヴァルド・グリーグ生誕170年記念コンサート

Memorial Concert Celebrating the 170th Anniversary of Edvard Grieg



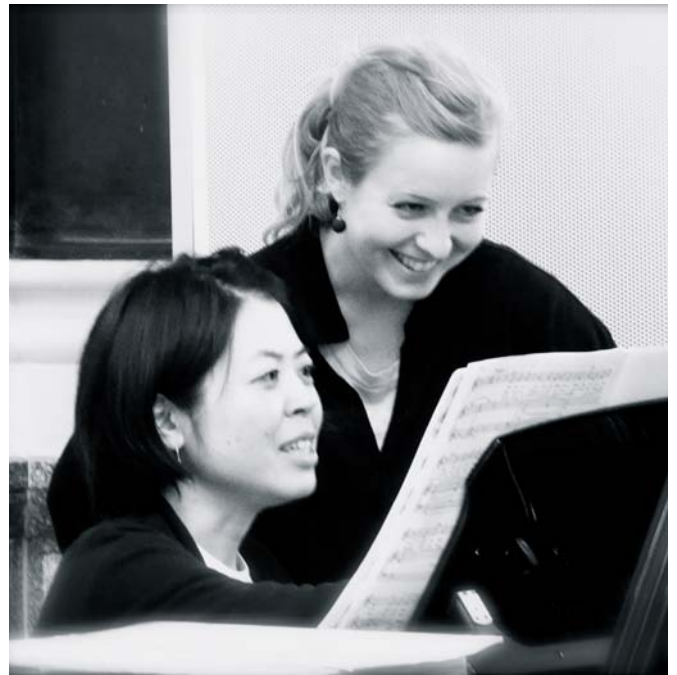
ノルウェーから愛と自然を

Love and Nature from Norway

デュオ
ウッラ・ヴェストヴィーク (ソプラノ)
加藤哲子 (ピアノ)

Duo

Ulla Westvik & Satoko Kato
(Sopran) (Piano)



Edvard Grieg Program

- 『漁師の娘』 op. 21 (ビョルンソン詩) *Four Songs by Bj. Bjørnson*
- 『ロマンス』 op. 15 (イブセン詩) *Romance (Ibsen)*
- 『叙情小曲集』より 春によせて 他 from *Lyric Pieces „To the Spring“*
- 『6つの歌曲』 op. 48 (ハイネ、ゲーテ詩他) *6 Songs (Goethe, Heine)*
- 『ペール・ギュント』 op. 23 より ソルヴェークの歌 (イブセン詩)
from *Peer Gynt „Solveigs Song“ (Ibsen)*
- 『イブセンの詩の歌曲集』 op. 25 より from *Six Songs (Ibsen)*
- 『ハウグトゥッサ』 (山の娘) op. 67 (ガルボルク詩) *Haugtussa (Garborg)*
- 『ハリング』 (ノルウェーの民俗舞踊) op. 72 より from *Halling*

2013年はノルウェーの作曲家、エドヴァルド・グリーグの生誕170年記念年にあたります。グリーグは偉大な作曲家のみならず、ノルウェーの詩歌と民俗音楽の重要な伝承者でもあります。私は、これまでにソプラノ歌手ウッラ・ヴェストヴィークを聞く機会が何度かありましたが、彼女はその存在感ある唯一無二の声色でもって、グリーグ歌曲の素晴らしい解釈者としての地位を築いています。今回のウッラ・ヴェストヴィークと日本人ピアニスト加藤哲子のコラボレーションは、言葉や文化の壁を超え、ノルウェーから遠く離れた日本の地で、グリーグの音楽に生命の息吹をもたらしてくれるでしょう。本演奏会がノルウェーと日本両国の相互理解に向けたひとつの礎となることを期待し、私は可能な限りこのプロジェクトを援助したいと考えています。日本の観客の皆さまにとって心に残る体験となるでしょう。

ノルウェー国立科学技術大学 言語、コミュニケーション研究学部
グンヒルド・オム・ヴァトン助教授

ノルウェー王国大使館後援
日本グリーグ協会後援



JR代々木上原駅東口より徒歩2分



開催日

2013.4.24 (水)

会場

ムジカーザ
MUSICASA

開演 (開演)

19:00
(18:30)

入場料 3,500円 (学生2,500円)

チケットお問い合わせ info@satokokato.ch 090-9692-0351(渡辺)
オントモ・ヴィレッジ <http://www.ontomovillage.jp>
音源、情報 <http://www.satokokato.ch>

プロフィール



デュオ Ulla Westvik & Satoko Kato

詩と音楽がひとつになった歌曲の世界に魅せられた二人はチューリッヒ芸術大学のハルトムート・ヘル氏のリート研究科で出会い、活動を始めた。現在はスイスをはじめ各地で精力的に演奏活動を行っている。今回の日本公演では東京、福岡、佐賀、神戸でエドヴァルド・グリーグ生誕170年記念公演を行う予定である。

録音：ヴィクトール・ウルマン『愛の歌』（ピントアートウアー・コンサートホール）
エドワード・グリーグ『ハウグトゥッサ』『6つの歌曲』op 48（サルネン市旧ギムナジウム）

Ulla Westvik

ソプラノ歌手 ウッラ・ヴェストヴィーク

1984年ノルウェー王国、トロンハイムで生まれる。11歳の時にトロンハイム交響楽団、ノルウェー・オペラ管弦楽団とオペラ『アマールと夜の訪問者』（メノッティ作曲）の主演、アマール役でデビューする。1997年トロンハイム1000年記念祭でノルウェー国王、女王の前でオープニングをアカペラで歌った。この模様はノルウェー国民テレビ放送（NRK）でライブ放送され、2000年16歳王女マツ・ルイーセの婚礼の際にはソロを依頼される。同年のクリスマスミサはノルウェー国営テレビ放送でライブ放送されている。2000年ノルウェー国民青年コンクールで優勝する。抜きん出た表現力を認められエドヴァルド・グリーグの故郷ベルゲンとオスロでソロリサイタルを行った。

2005年ノルウェーの現代作曲家 P・Johansenのオペラ『マドンナ・フリオーザ』で主役としてトロンハイム・ソリストンオーケストラ（アンナ・ゾフィー・オッター）と共演しスカンジナビアの主要なオペラハウスで初演を行った。2004年から2008年にオスロ国立音楽大学で声楽をホーカン・ハーグゴル教授のもとで師事し、2008年よりチューリッヒ芸術大学にてスコット・ウィアー教授のもとで修士課程を最優秀で修了。また同大学のハルトムート・ヘル教授の歌曲研究クラスにも在籍し、ピアニストの加藤哲子とデュオを組みリーダーイベントも精力的に行っている。

2008年よりチューリッヒ・トーンハレ交響楽団所属のヴォーカルアンサンブルに所属し、著名指揮者のもと多数の演奏会に出演。中でも2011年のルツェルンフェスティヴァルではバレンボイム指揮ベルリン国立楽団とリストのダンテ交響曲のソリストとして共演。2009年以来著名なリュート奏者ロルフ・リスレヴァンドのアンサンブルでもソリストに招聘され、フィレンツェのバジリコ、聖ロレンツォ教会をはじめポーランド、ドイツでツアーを行った。2012年にはスイス・ディーネマン基金のコンクールで優勝。2013年チューリッヒのオペラカンパニーが主催する『ドン・ジョバンニ』（パッチェニ作曲）全11公演の主役に抜擢されている。

Satoko Kato

ピアニスト 加藤哲子

神戸生まれ。専門は歌曲伴奏、コレペティートル。

大阪音楽大学ピアノ科、アムステルダム音楽院ピアノ科ポストグラデュエート卒業。2004年、2007年野村国際文化財団より奨学金を得てチューリッヒ芸術大学室内楽・リート伴奏科で研修し、コンサートディプロマを最優秀で取得。更に同大学院にてハルトムート・ヘル教授の歌曲マスタークラス修士課程を最高得点で修了。

1992年日本クラシック音楽コンクール全国大会特別賞、2000年北ロンドンピアノコンクール奨励賞、及び伴奏賞を受賞。2007年パリ・ブランジェ・リートデュオコンクールではファイナルリサイタルの模様をフランス国営ラジオに放送され、パートナーの現代曲賞を受賞に至る。

主な演奏会はアムステルダムコンサートヘボウ、チューリッヒ市役所ホール、スイス・ビュール音楽祭、チューリッヒ・シューベルティアーデ、ルツェルン・コングレッセホール、リヒテンシュタイン公国市役所ホール、スペイン・カザルス音楽堂（バルセロナ日本領事館主催）、アンカラ土日基金ホール（トルコ日本大使館主催）、トルコ・メルシン国際音楽祭。2011年にはスイス、サルネン市にて恩師のハルトムート・ヘル氏と作曲家ヴィクトール・ウルマンの演奏会に出演。日本でも東京文化会館、京都・青山音楽記念館バロックザール、兵庫県立芸術文化センター、大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス第24回推薦コンサートでリサイタルの伴奏を担う。2012年にはSUISA基金より奨学金を得てチューリッヒ、ジュネーヴ、西宮、東京、滋賀、岡山でコンサートツアーを行った。

現在はスイスに在住。ヨーロッパのコンサート歌手、オペラ歌手から信頼のおける音楽パートナーとしてリーダーイベント、国際マスタークラスの伴奏の依頼を多く受ける他、現代オペラプロダクション、チューリッヒ芸術大学、国立カールスルーエ音楽大学でもコレペティートルとして従事する。2010年 母校大阪音楽大学、大学院にて「文化の諸相」及び「伴奏理論」の特別講義を行う。スイス・チューリッヒ州立国家大学入学試験校講師。

